



こんな本も読んでみましょう

選者：NPO 法人 日本ブック協会 理事長 有元 秀文

作：
寺村 輝夫

「おしゃべりなたまごやき」

たまごがしゃべりだして、王さまのいたずらがばれた話

王さまは、あさのあいさつをして、べんきょうをするとたいくつしたので、にわとりをにがしました。にげたにわとりは、王さまのへやでたまごをうみました。そのたまごをたべようとすると、たまごが王さまの声でしゃべりだして「わしがとりごやをあけたのを、だれにも言うなよ」といったのです。王さまはどうなるでしょう…？

作：
寺村 輝夫

「しゃぼんだまのくびかざり」(「ぼくは王さま」第2話)

王さまは、しゃぼん玉のたねをまきました

王さまはあそぶのがだいすきでした。しゃぼん玉がきにいった王さまは「つぶれないしゃぼん玉をつくってくれ」とけらいにいいました。でもしゃぼん玉は、こわれて小人のような子どもが出てきました。こどもは王さまに、はたけをつくるようにいいました。そしてしゃぼん玉のたねをまいたのです…。

作：
いぬい とみこ

「小さな小さな駅長(えきちょう)さんの話」

じぶんのおにぎりをあげてしまった駅長さんは？

小さなきかんしゃがはしています。小さなえきに小さな駅長さんが立っていました。こどもが「おべんとうはないの？」とききましたがありません。駅長さんは、おくさんのつくってくれたおむすびをあげました。ある日、小さなかみづつみが小さなえきにとどきました。中にほしがきと男の子のしゃしんがありました…。

作：カーズ・
ウィリアムズ

「しろいうさぎとくろいうさぎ」

しろいうさぎと、くろいうさぎは、いつもなかよくあそんでいましたが…

しろいうさぎと、くろいうさぎが、もりにすんでいました。いつもいろんなことをしてあそびました。でも、ときどきくろいうさぎは、かなしそうなかおをします。しろいうさぎがきくと、くろいうさぎはねがいごとをしていたのです。「いつもいっしょにいられますように」と。2ひきは怎么样了しょうか…？